

近世

ヨーロッパにおいて、15世紀から始まった大航海時代の主役はスペイン・ポルトガルであったが、ルネサンス・宗教改革という胎動を経た16世紀後半から、イギリス・フランス両国が中心になって近代国家の建設に向かっていった。両国は16～17世紀に絶対王政の全盛期を迎え、海外に向けて植民地獲得の争いを展開するようになり、イギリスは植民地から得た富を資本に産業革命を進めた。この間、哲学・文学・科学の発達によって合理的精神がつつかわれ、やがて支配体制をかえようとする市民革命を展開して、国民国家を形成させた。

一方、アジアでは中国の明が17世紀中頃に崩壊し、清が中国を統一して、18世紀半ばの乾隆帝の時代には最大の領域を誇るに至った。そして、豊かな財力で文化の充実をはかったが、近代化への活力には乏しく、19世紀にはアヘン戦争をはじめとしてしだいに欧米勢力に圧倒されるようになっていった。このような事情は、ムガル帝国の支配下にあったインドでもみられた。

日本は大航海時代の波の中、鉄砲の受容によって織田・豊臣・徳川氏による戦国の世の統一が促進され、キリスト教は幕藩体制の確立過程で禁圧され、「鎖国」となる一因となった。鎖国とはいえ、朝鮮や琉球王国・アイヌ民族との交渉はもち続けた。幕藩体制は、検地・刀狩を通して兵農分離された安定した封建支配体制であった。しかも武士を支配身分とする身分階層の序列が固定していたことから、260年余り封建体制が続いた。その間、人口の80%をこえる農民の生産力は上昇し、元禄期以降には庶民の文化や学問は全国的に着実に発展した。18世紀半ばからは、地主・小作の関係が展開したことで封建体制は動揺を始め、農民一揆や都市の打ちこわしも発生した。対外的にも鎖国をゆるがすロシアの接近のほか、19世紀後半には欧米の資本主義の圧力がせまる中で開国することになった。幕府は国内外の危機に対応しきれず、天皇・朝廷の権威が浮上することになった。

時代	1600	1650	1700	1750	1800	1850
文化	安土・桃山	江戸				
政治	(桃山)	(寛永)	(元禄)	(宝暦・天明)	(文化)	(政治)
主要事項	室町幕府滅亡 豊臣秀吉、全国統一 文禄・慶長の役 江戸幕府成立 三十年戦争 鎖国 英イギリス革命 仏ルイ十四世即位	幕藩体制成立	英名草革命 露ピョートル一世即位 享保の改革 正徳の政治	清乾隆帝即位 享保の改革 田沼降代 ラッスマン、根室に来航 フランス革命 寛政の改革 アメリカ独立宣言	ナポレオン、皇帝即位 異国船打払令 アヘン戦争 天保の改革 自由主義	米南北戦争 日米修好通商条約 ペリー来航 太平天国の乱
世界	明	大航海時代	植民地争奪	朝鮮	清	ムガル帝国 オスマン帝国

近世の幕開け

世界やアジアの経済・交易が活発になる中、16世紀末には日本列島の権力を1つに統合した天下人が出現した。そのもとで武士・百姓・町人のあり方も大きく変化し、日本列島は近世という新しい時代を迎える。国内外のどのような動きによって、どのような時代に入ってしまったのだろうか。

1 織豊政権

近世への転換

戦国大名が列島各地に割拠していた16世紀半ば、

日本では銀が大増産され、また海上航路でアジア

交易に参入してきたヨーロッパ人によって鉄砲やキリスト教が伝えら

れた。国際的な交易の活性化や外来の技術・思想にどのように対応す

るかが、為政者たちに問われる時代となった。以後、有力な大名によ

る領国の統合が急速に進み、16世紀末には豊臣秀吉によって全国が

1つの政権のもとに統合された。素性の定かでない身分に生まれて

関白にまでなった秀吉は、この間の激しい社会の変動を象徴している。

秀吉は家臣・大名を編成する過程で、新しい方法による検地や石高

による知行制を採用し、武士・家臣と百姓・町人とを区別して、村

と町を基盤とする新しい支配の仕組みを築き上げた。それと同時に中

国への侵攻を掲げて朝鮮侵略を強行し、明を中心とする東アジアの国

際秩序を大きくゆがらすことになる。

銀の交易と鉄砲伝来

1530年代以降、石見銀山などで、朝鮮から

伝わった灰吹法^①という新しい精錬技術が

導入され、銀が大幅に増産された。中国の明は16世紀になると税の銀

納化を進めていたので、日本産の銀が大量に中国に流入した。その対

価として中国産の生糸などが日本にもたらされ、日中間の貿易が活発

になった。しかし、明は民間の貿易を認めない海禁政策を続けていた

ため、その取締りに対抗して武装した中国人を中心とする密貿易商人(後倭寇)が活躍した。

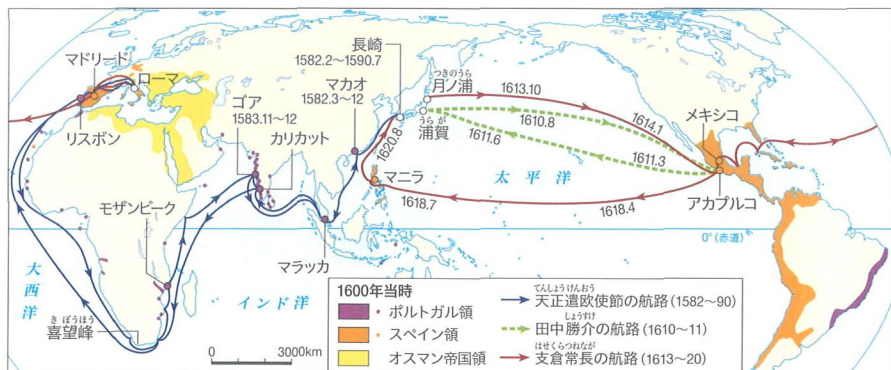
一方、ヨーロッパの南西の端に位置するポルトガルは、15世紀にな



豊臣秀吉 尾張国中村(現在の名古屋)に生まれ、織田信長に仕え、異例の出世をとげた。信長の死後、いち早く政治の主導権を握った。

① 細かくくだいた銀の鉱石(不純物を含む)を鉛とともにとかして、銀と鉛の合金をつくる。その合金を、灰を敷いた炉で熱すると、最初に鉛がとけて灰にしみ込み、灰に吸収されない銀を取り出すことができる。

② 肉の保存・味付けのために用いられた。コショウ(胡椒)・チョウジ(丁子)・シナモン・ナツメグなど。



16世紀末の世界と日本人の往来 オスマン帝国が地中海交易を支配したために、ポルトガルやスペインは西方の海外を目指し、アフリカ西部やアメリカ(新大陸)へ進出した。



種子島銃(長さ99.8cm、種子島時邦蔵、鹿児島県)

るとアフリカへの探検を進め、インド・東南アジアの特産品である香料^②を求めて、15世紀末にはインドへの航路を開拓した。スペインはアメリカ大陸から太平洋を横断してフィリピンへ進出した。ローマ教皇が率いるカトリック教会も海外への布教を積極的に後押しした。こうしてヨーロッパを中心に世界の諸地域が広く交流する^{だいこうかい}大航海時代が始まった。

ポルトガルは1510年にインド西部のゴアを攻略し、翌年にはマラッカ(現、マレーシア)も占領し、1540年代になると九州各地に漂着もしくは来航するようになった。1543(天文12)年^{てんぶん}③、中国人密貿易商人の有力者王直^{おうちよく}の船に乗ったポルトガル人が大隅の種子島^{たねがしま}に来航し、鉄砲^{てつぽう}をもたらした。島主の種子島時堯^{ときたか}は家臣に鉄砲の使用法と製造法を学ばせ、鉄砲製造の技術は和泉の堺^{さかい}や近江の国友^{くにとも}など各地に広まった。戦国大名のあいだに鉄砲は急速に普及し、足軽隊の編成など軍隊・戦術のあり方や城の構造にも変化をもたらした。

キリスト教と南蛮貿易

1549(天文18)年、イエズス会^{せんきょうし}の宣教師フランシスコ・ザビエル^{Francisco de Xavier}が、やはり中国人商人の船で鹿児島^{きょうご}に来航し、キリスト教を伝えた^④。ザビエルは山口^{ふんごふない}と豊後府内(大分市)などで布教し、以後、つぎつぎに宣教師が来日して^⑤、多くの信者を獲得した。とくに九州の大名の中には貿易の利益を得る目的もあってキリスト教に帰依する者(キリシタン大名^⑥)が現れ、家臣や領民の改宗・入信を進めたが、それが家臣団の内部対立や大名相互の戦いのきっかけにもなった。



詳しく
みてみよう!

鉄砲伝来

Q▶ 鉄砲が急速に普及したのは、なぜだろうか。

③ 1542(天文11)年とする説もある。

④ イエズス会は、宗教改革に対抗するカトリック教会の改革派グループで、ザビエルはその創立者の1人である。マラッカで布教中に、薩摩からポルトガル商人の船に乗ってきていたアンジロウ(ヤジロウ)と出会い、日本人が布教に適すると考えた。

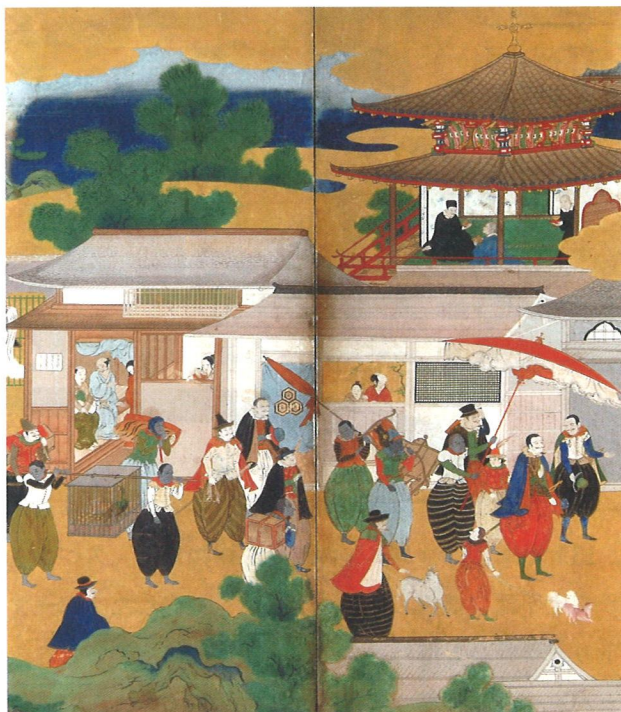
⑤ ガスパル＝ヴィレラ、ルイス＝フロイスなど。彼らは布教のために日本の生活習慣や文化を熱心に研究した。彼らの書簡や報告書・著作は、当時の日本を知る貴重な史料となっている。

⑥ 大友義鎮(宗麟)・大村純忠・有馬晴信らがいる。

Q▶ キリスト教が急速に広まったのは、なぜだろうか。



信長「天下布武」の印影
(書状は東京大学史料編纂所蔵)



南蛮人と南蛮寺
来航した南蛮人の船長が黒人の従者を多数引きつれている。右上には屋上に十字架を頂く南蛮寺が描かれているが、建築様式は日本の仏教寺院風である。寺の中には黒衣のパレレンの姿がみえる。
〔南蛮屏風〕、部分、南蛮文化館蔵、大阪府)

1584年に肥前の平戸に来航した。

①これによって琉球の東南アジア貿易は打撃を受け、薩摩の島津氏へ従属を深めた。

②スペイン領となったフィリピンと日本のあいだを商船や宣教師が行き来するようになった。

松浦氏の平戸、大村氏の長崎、大友氏の豊後府内など九州の諸港で行われた。

Q▶ 信長の政策は、ほかの戦国大名とどのような点で異なっていたのだろうか。

③この場合の「天下」は、将軍の支配がおよぶ畿内やそこでの政治秩序を意味していたとみられる。

明は1560年代末には海禁を緩和して中国人商人の東南アジア渡航を許可したが①、日本への渡航は認めなかった。そのため中国南部のマカオに進出していたポルトガル人が中国・日本間の貿易に乗り出し、長崎などへ入港するようになった。当時の日本人々は、ポルトガル人や少し遅れて来航したスペイン人を「南蛮人」と呼んだので、この貿易を南蛮貿易という。やはり生糸・絹織物などの中国物産と日本の銀とが交易された。こうしてアジアの経済交流が活発になり、極東にある日本にもヨーロッパの新しい技術や文化、価値観が入ってきた。

織田政権

織田信長とそれに続いた豊臣秀吉である。この2人の築いた政権をあわせて織豊政権と呼ぶことがある。

織田信長は尾張守護代の重臣の家に出て同国を統一すると、1560(永禄3)年、駿河などの大名今川義元の侵攻を受けたが、これを桶狭間の戦いで破り、以後、三河の大名となった松平元康(徳川家康)と同盟を結んだ。その頃、京都では将軍足利義輝が政変で殺害され、その弟足利義昭から幕府再興の働きかけを受けた信長は、1567(永禄10)

鉄砲隊の活躍 長篠の戦いにおいて、織田・徳川の連合軍は、大量の鉄砲を用いて図の右から攻撃する武田軍を破った。

(『長篠合戦図屏風』、部分、徳川美術館蔵、愛知県)



年に美濃の斎藤氏を追い払って岐阜に本拠を移し、「天下布武」の印章を用いはじめた^③。翌年、信長は軍勢を率いて義昭とともに京都に上り、室町幕府を再興させた。また分国内の関所^{かんしよ}で通行料をとることを^{さかい}禁じ、商業・自治都市として繁栄していた^堺の支配にも乗り出した。

しかし、畿内周辺にはなお、信長に敵対する勢力が多かった。1571(元亀2)年、信長はその1つで日本仏教の中心として大きな権勢を誇っていた比叡山^{ひえいざん}延暦寺^{えんりゃくじ}を焼討ちした。信長はやがて足利義昭と対

立して1573(天正元)年に京都から追放する^④と、1575(天正3)年には三河の長篠^{ながしの}の戦いで、徳川家康をたすけ、大量の鉄砲を用いて甲斐の武田勝頼(信玄の子)を破り、また越前^{えちぜん}の一向一揆^{いっこういっき}を攻撃して壊滅させた。翌年には近江の琵琶湖畔に安土城^{あづち}を築きはじめた。その城下町は^{まち}楽市^{らくいち}として、商業税や普請・伝馬^{でんま}の負担を免除して繁栄をはかった。

1580(天正8)年には長らく対立してきた本願寺を屈服させ、大坂から退去させた^⑥。本願寺は諸国の門徒・一向一揆を率いて、戦国大名のような大きな勢力を誇っていた。さらに信長が1582(天正10)年に甲斐の武田氏を滅ぼすと、東日本の大名の多くが服属するようになり、

楽市令

定 安土山下町中^①

一 当所中楽市として仰せ付けらるるの上は、諸座・諸役・諸公事等、ことごとく免許の事^②。

一 普請免除の事^③。

一 分国中徳政これを行うと雖も、当所中免除の事^④。

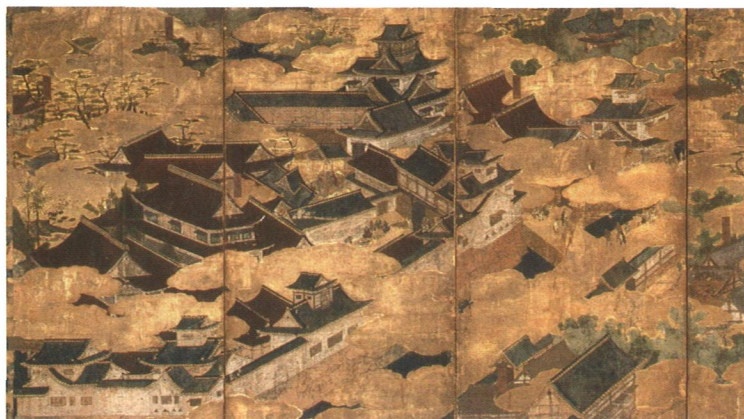
(近江八幡市共有文書、原漢文)

① 一五七七(天正五)年六月、織田信長が安土城下町に出した楽市令で、一三条よりなる。② この城下町を楽市にすることにしたので、城下町は楽座(無座)で住民のいっさいの税は免除となる。③ 徳政令が出されても、この城下町の町人の債権は破棄されない。

④ これで室町幕府は実質的に滅亡した。実際に義昭が將軍職を辞するのは豊臣政権成立後である。

⑤ 普請は土木工事、伝馬は馬で人や荷物を運送すること。

⑥ 大坂の本願寺は、寺内町を有する事実上の城であり、のちに石山と呼ばれた。信長との10年におよぶ戦争を石山合戦(石山戦争)と呼ぶ。



天下人としての名声を高めた。
九州でも大友氏が服属し、敵対する四国の長宗我部氏と中国の毛利氏を攻める計画を進めていたが、独裁的な政治手法は不満もまねき、重臣の明智光秀に背かれて滅んだ(本能寺の変)。

聚楽第 秀吉が平安京大内裏の跡地に築いた城。周囲には大名や家臣の屋敷、町家がつくられた。秀吉は京都を土塁(御土居)で取り囲み、聚楽第の城下町として改造した。
(『聚楽第図屏風』、部分、三井記念美術館蔵、東京都)

山崎の合戦

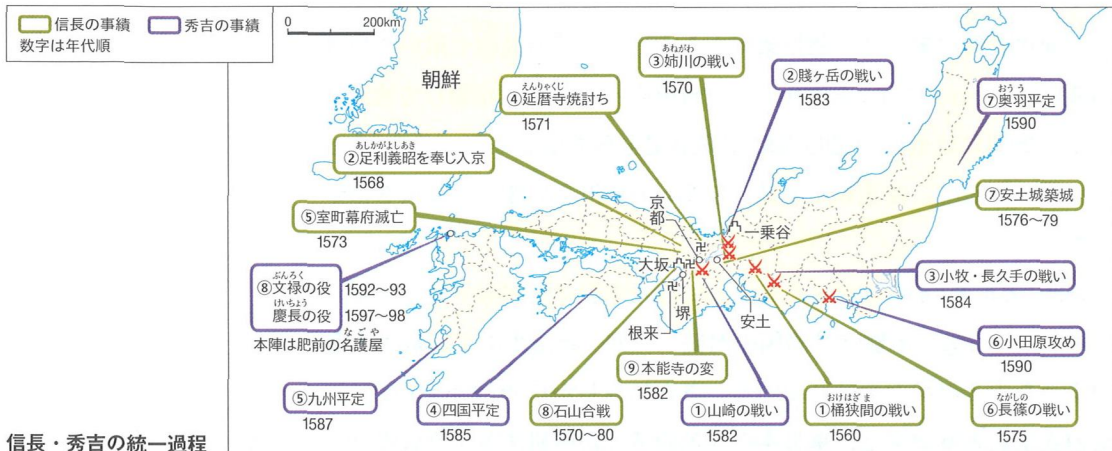
①信長に仕えて近江長浜城主となり、播磨や但馬を支配下におさめていた。

Q▶ 秀吉にとって、朝廷はどのような存在だったのだろうか。

豊臣秀吉の全国統一

光秀と同じく信長の重臣だった羽柴秀吉①は、本能寺の変当時、毛利氏と対戦中であつたが、変を知るとすぐさま講和して京都の南の山崎まで引き返し、光秀を破った。その後、信長の最有力家臣だった柴田勝家も破って(賤ヶ岳の戦い)、1583(天正11)年、本願寺の跡地に壮大な大坂城を築きはじめた。

秀吉は、信長の次男信雄および徳川家康とも尾張などで対戦したが(小牧・長久手の戦い)、信雄と講和して臣従させた。まもなく朝廷で公卿に列し、1585(天正13)年には紀伊や四国、越中を攻めて支配下におさめ、その頃に生じた関白の地位をめぐる摂家間の争いに介入して関白についた。摂家以外の者が関白になるのは前代未聞であつた。翌年には新しく即位した後陽成天皇から豊臣の姓を与えられ太政大臣にもなった。以後、秀吉は天皇の権威を利用しつつ諸大名を服属さ



秀吉が戦国大名に下した、戦闘の停止と領地の確定を秀吉に委任させる命令を惣無事令という。

せ、彼らを朝廷の官位につけて、関白であるみずからを最上位とする秩序のもとに位置づけた。

九州では大友氏が、九州平定を目指す島津氏から圧迫を受け、秀吉に助けを求めた^②。秀吉は島津氏に天皇の意思と称して停戦を命じたが、島津氏は抵抗した。秀吉は越後の上杉氏や徳川家康を臣従させ東方を固めると、1587(天正15)年にはみずから出向いて島津氏を降伏させ、九州を支配下においた。九州から帰ると、本拠を大坂城から京都に築いた聚楽第に移し、翌年には後陽成天皇をまねき、諸大名を集めて政権への忠誠を誓わせた。

小田原攻め

関東では小田原の北条氏が領地問題で秀吉の裁定に違反したことを咎め、1590(天正18)年、諸大名を動員して攻め滅ぼした。続けて伊達氏と奥羽の大名を服属させ、徳川氏を関東へ転封させた。まもなく奥羽でおきた一揆・反乱を鎮圧し、全国の大名を1つの政権のもとに統合した。この政権は秀吉の独裁に近く、その意思を側近や重臣が大名らに伝達し指導することで、政治が遂行された。

豊臣政権の土地・身分政策

中世後期の近畿地方では、惣村の自治や農業の生産力が発達していた。

そこを根拠に台頭した秀吉は、惣村の伝統をふまえ、服属させた地域に、村を単位として新しい方法で検地を施行していった。これを太閤検地と呼ぶ。1段(反)を360歩から300歩に狭めて田畑・屋敷の面積を1区画ごとに測り、上・中・下・下々などの等級に応じて石高を定め、作人(百姓)を記載した検地帳を作成させて村に交付した。地主などが小作料をとる権利を認めず、年貢を負担する百姓1人の土地所持を認めた(一地一作人)。村の自治的な力量と責任で年貢などを一括納入する村請制も導入されていった。大名にも石高で知行を与え、豊臣政権も近畿地方を中心に220万石をこえる蔵入地(直轄地)を確保した。

また豊臣政権は1585(天正13)年、支配下で広く大名の国替(転封)を断行し、翌年には武士とその従者である奉公人、そして百姓のあり方を定めた。百姓が村から引越すのを制限し、武士には百姓へ不当な命令をすることを禁じ、収穫高を見積もって、大名・武士が2、百姓

②中国地方の毛利氏もすでに秀吉に従っていた。

③たとえば、上田1段は1石5斗などと中世の本年貢と比べて大幅に高く設定し、貫高(銭の量)ではなく米の量で表示した。また従来、枡の容量はまちまちだったが、京枡を基準として採用した。

Q 大名の転封は、どのような影響をおよぼしたのだろうか。

太閤検地尺 島津領検地の測量基準となった尺で、表面(左)には奉行石田三成の署名がある。×印のあいだを1尺と定めている。裏面(右)には、6尺3寸を1間とし、5間×60間=1段と定めることが記されている。1段(反)は約10アールである。(長さ45.5cm、尚古集成館蔵、鹿児島県)



天正大判 1588(天正16)年に铸造されたもの。
(縦約14cm、横約8.3cm、日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵)

①百姓にきびしいこの二公一民の基準が実際に厳守されたわけではなく、石高をもとに一定割合で免除分を引いて年貢額を算出することが多かった。

②堺の小西隆佐(行長の父)、博多の島井宗室・神屋宗湛ら
が有名である。

が1の割合に配分して年貢をとるよう命じた①。1588(天正16)年には、百姓から刀・脇差などの武具を取り上げるよう命じる刀狩令を出し、一揆を防止し、百姓を耕作に専念させる意図を示した。

一方、直轄都市である京都・大坂などでは年貢に当たる地子を免除し、町方(町)と在方(村)とを区別した。寺社や公家と結びついた特権的な同業組合である座を解散させ、豪商②とも結んで、町方での商業の振興をはかった。但馬生野銀山などを直轄し、各地の金銀山か

他に佐渡金山や石見大森銀山を直轄した

読みといてみよう

1条目と2・3条目とでは、秀吉が意思を伝えたい相手が違っているようにも読める。どのように異なるのだろうか。また、そのような法令にしたのはなぜだろうか。考えてみよう。

刀狩令

条々

一 諸国百姓、刀・脇指①・弓・やり・てつはう、其外武具のたぐひ所持候事、堅く御停止候。其子細は、入らざる道具②をあひたくはへ、年貢・所当を難渋せしめ、自然③、一揆を企て、給人④にたいし非儀の動をなすやから、勿論御成敗あるべし。然れば其所の田畠不作せしめ、知行ついえ⑤になり候の間、其国主、給人、代官として、右武具、悉く取りあつめ、進上致すべき事。

二 右取をかるべき刀・脇指、ついえにさせらるべき儀にあらず候の間、今度大仏⑥御建立の釘・かすかひに仰せ付けらるべし。然れば、今生⑦の儀は申すに及ばず、来世までも百姓たすかる儀に候事。

三 百姓は農具さへもち、耕作専⑧に仕り候へハ、子々孫々まで長久に候。百姓御あはれミをもつて、此の如く仰せ出され候。誠に国土安全万民快樂の基也。右道具急度取り集め、進上有るべく候也。

天正十六年七月八日(秀吉朱印)

(小早川家文書)

① 短い刀のこと。② 農耕に不要な武器。③ もしも。④ 大名から土地を給与されている家臣。⑤ むだ。⑥ 秀吉が建立させていた京都方広寺の大仏。⑦ 現世。⑧ 耕作に専念すること。

読みといてみよう

この地域で秀吉の政策や検地に反対したのは、どのような人々だったのだろうか。以前に出された刀狩令ともあわせて考えてみよう。

奥羽平定と太閤検地

一 仰せ出され候趣①、国人・井・百姓共ニ合点②行候様ニ、能々申し聞すべく候。自然③、相届かざる④覚悟の輩これ在るに於ては、城主にて候ハ、其もの城へ追入れ、各相談⑤、一人も残し置かず、なでぎり⑥ニ申し付くべく候。百姓以下ニ至るまで、相届かざる二付てハ、一郷も二郷も悉くなでぎり仕るべく候。六十余州⑦堅く仰せ付けられ、出羽・奥州迄さう⑧ニハさせらる間敷候。たとへ亡所⑨ニ成候ても苦しからず候間、其意を得べく候。山のおく、海はろかいのつ、き候迄、念を入るべき事專一に候。

(天正十八年)八月十二日(秀吉朱印)

浅野彈正少弼とのへ(浅野家文書)

① 奥羽平定に際し、検地の徹底と大名・国人からの人質徴集を命じたこと。② 納得。③ もしも。④ 納得しないこと。検地に反対することを指す。⑤ 検地担当の武将たちが連携して。⑥ 撫斬り。片端から切り捨てること。⑦ 日本全国のこと。⑧ 全国に六六カ国二島あつた。⑨ 粗相。粗略の意。⑩ 耕作者のいない土地。

らも産出額の一部を上納させて、蔵入地につぐ財政の基盤とした。当時、金銀が貨幣として流通するようになっており、豊臣政権は中央
権として金銀貨の公定に乗り出した④。

秀吉による人掃令

1591(天正19)年には大陸侵攻に向けて、全国の石高を調査し④、大名
らを戦争に動員する軍役の基準として掌握した。また奉公人が町人・
百姓になることや勝手に奉公をやめること、百姓が耕作を放棄して商
売に出ることを禁じた。翌年にも朝鮮へ従軍した奉公人らの逃亡を摘
発する法令(人掃令)を出し、町や村の責任で、身分別に家数・人数
を調査させた。こうした政策や、国替・検地・刀狩などによって、武士・
奉公人と百姓との身分の分離(兵農分離)が定まっていた。

対外政策と侵略戦争

秀吉は信長と同じく、当初、宣教師の布
教活動に好意的であった。しかし、1587(天

正15)年に九州を平定すると、教会がキリシタン大名を通じて力をもち、
大村純忠が長崎をイエズス会に寄付していることなどを知って警戒を
深め、宣教師に国外退去を命じ(バテレン追放令)、翌年には長崎を直
轄した。まもなく海賊取締令を出して海上交通の安全を確保し、ま
た生糸を優先的に買い上げるなど、秀吉は貿易には積極的であったが、
ポルトガル人らの貿易は布教と一体化していたため、宣教師の追放は
徹底しなかった⑤。

武威を誇る秀吉は早くから大陸侵攻の意志を示していたが、九州を

平定すると対馬の宗氏を通して朝鮮国王
に服属と来日を求め、ほかの近隣諸国
へも同様の要求をした。朝鮮は1590(天
正18)年に日本統一を祝う使節を派遣し
てきたので、秀吉は明征服の先導を求め
た。宗氏らは明出兵の道を借りるだけだ
として交渉したが、朝鮮はこれを拒否し
た。秀吉は1591(天正19)年には出兵の根
拠地として肥前に名護屋城を築き、甥の

豊臣秀次に聚楽第と関白職を譲った⑦。
翌1592(文禄元)年には九州へ出向き、

③京都の金工後藤家につくら
せた天正大判(→p.143写真)がよ
く知られている。

④国ごとに、検地の結果を帳
簿(御前帳)にまとめて郡ご
との絵図とともに提出させた。

⑤1596(慶長元)年、土佐に
漂着したスペイン船サン＝フ
ェリペ号の船員が尋問を受け、
スペインは布教活動を利用し
て領土を広げていると証言し
たとされる(サン＝フェリペ
号事件)。事件ののち、秀吉
はスペイン系の宣教師や信徒
あわせて26人を捕らえて長崎
で処刑した(26聖人殉教)。

⑥琉球王国、マニラのスベ
イン政庁、高山国(台湾)など。

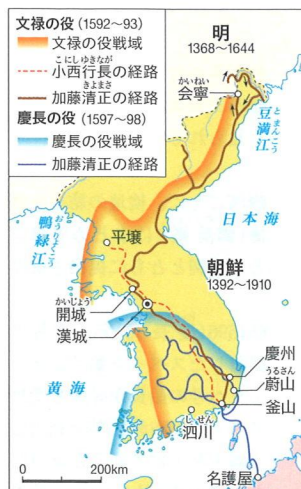
⑦以降、秀吉は、関白を辞め
た人の尊称である太閤と呼ば
れたが、1595(文禄4)年には
秀次を追放し切腹させた。

Q▶ 秀吉はなぜ大陸侵攻を
志したのだろうか。

バテレン①追放令②

定 ① 日本ハ神国たる処、きりしたん国より邪法を
授け候儀、太②以て然るべからず候事。
② 其国郡の者を近付け門徒になし、神社仏閣を打
破るの由、前代未聞に候。
③ 伴天連、其知恵の法を以て、心ざし次第に檀
那④を持ち候と思召され候へハ、右の如く日域
の仏法を相破る事曲事に候条、伴天連の儀、日本
の地ニハおかせられ間敷候間、今日より廿日の
間ニ用意仕り帰国すべく候。
④ 黒船の儀ハ商売の事に候間、各別に候の条、
年月を経、諸事売買いたすべき事。
天正十五年六月十九日 (松浦文書)
① バテレンはポルトガル語のバードレ(神父の音訳で、外
国人宣教師のこと。② 豊臣秀吉が出した追放令の写しで五
条よりなる。③ 信者。④ 日本。⑤ ポルトガル・スペイン船。

※1 腹心の家臣を**五奉行**として政務を分掌させ、有力大名を**五大老**として重要政務を合議させる制度ができたのは、秀吉の晩年のことだった。



文禄・慶長の役関係図

① この知らせを聞いた秀吉は、明を征服した後は、後陽成天皇を北京に移し、秀次を中国の関白にすえ、秀吉自身は日明貿易の港であった寧波を居所とする構想を示した。

② 五大老は徳川家康・前田利家・毛利輝元らの最有力大名で、五奉行は浅野長政・石田三成・増田長盛であり、行政実務を統括した。

Q▶ 城は中世と比べ、どのように変化しただろうか。



姫路城(白鷺城) 関ヶ原の戦い(→p.154)ののち城主となった池田輝政が大工事をおこし、1609(慶長14)年に竣工。総面積56万8000坪(約1.875km²)の平山城で、連立式の天守がみごとである(本丸・西の丸は現存)。(兵庫県)

にしゆきなが きよまさ
小西行長・加藤清正らが率いる約16万の兵を朝鮮に送り込んだ(文禄の役、朝鮮では壬辰倭乱)。日本勢はまもなく漢城(ソウル)をおとしいれ①、朝鮮全域に侵攻した。

朝鮮の民衆は義兵を組織して蜂起し日本軍に抵抗した。李舜臣(リ・スンシン)1545～98率いる朝鮮水軍も日本軍の補給路に打撃を加え、明も軍勢を送って朝鮮をたすけたので、日本軍の侵攻は行き詰まった。現地司令官は明とのあいだで休戦して独自に講和交渉を進めたが、朝鮮南部の割譲を求める秀吉の考えとは食い違いが大きく、秀吉が激怒して交渉は決裂した。1597(慶長2)年、秀吉は再び朝鮮に軍勢を送った(慶長の役、丁酉再乱)が、最初から苦戦を強いられた。翌年に秀吉が死去すると、その直前に定められていた**五大老**・**五奉行**②が軍勢を撤退させた。

朝鮮の人々は大きな犠牲を強いられ、日本に対する憎しみを長く抱いた。また多くの朝鮮人が捕虜として日本へ連行された。明は膨大な戦費で財政窮乏を深刻化させ、衰退に拍車をかけた。日本では有力大名どうしの対立が激化し、豊臣政権は動揺した。

2 桃山文化

桃山文化

織豊政権の時代を、政権の所在地③にちなんで**安土・桃山時代**と呼ぶことがあり、この時代を中心とする文化を**桃山文化**と呼ぶ。その特色は、武家の権力を結集した天下人

や大名の威勢、あるいは戦争や貿易で大きな富を得た豪商の気風を反映した豪華さや壮大さにある。また室町文化に比べると仏教色が薄れ、世俗的・人間中心的な色彩が強まった。さらに、ヨーロッパとの接触やアジア各地との活発な交流、秀吉の朝鮮侵略の影響などもあって、多彩な性格をおびた。

桃山文化を象徴するのは**城郭建築**である。平野部に石垣と堀をめぐらした平山城や平城が、江戸時代初頭にかけて天下人や大名によってつぎつぎに築かれた。城主の居館・政庁となった城の中心には



『唐獅子図屏風』 六曲 一双。金色の雲間を堂々とし歩く雌雄の唐獅子を力強く豪快な筆致で描く。明治期まで毛利家に伝えられていた。(右隻、狩野永徳筆、縦223.6cm、横451.8cm、宮内庁三の丸 尚蔵館蔵)



智積院模絵 楓の間の「楓図」、桜の間の「桜図」、草花の間の「松に草花図」など、6室にわたる華麗な金碧障壁画の1つ。智積院は、秀吉の建てた祥雲寺跡地に家康が建てさせた寺。(楓図、伝長谷川等伯筆、各面：縦172.5cm、横139.5cm、智積院蔵、京都府)

天守(天主)と呼ばれる高樓建築のほか、大広間をもつ書院造の御殿がつくられ、城主が多くの臣下と対面して主従関係や身分の差を示す場となった。城郭とともに営まれた城下町が巨大化したのもこの時代の特徴で、天守をもつ城はその中心にあって城主の権威を広く示した。

美術と風俗

城や寺院の壁や襖には、花鳥や山水、獅子や竜虎などを題材とし、

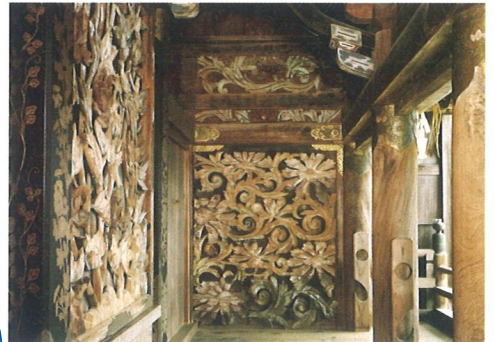
金箔などの上に青や緑の濃い絵の具で着色した金碧

の障壁画が描かれた^④。とくに信長と秀吉に仕え

た狩野永徳^{1533～90}は雄大な作風で、安土城・大坂城・聚楽第の障壁画を描き、その門人狩野山楽も秀吉や子の秀頼に仕え、大坂や京都で活躍した。

海北友松^{1533～1615}や長谷川等伯^{1539～1615}はそれぞれ近江・能登から京都へ出て、水墨画に秀でたが、金碧画でも狩野派に並ぶ絵師として知られた。

また屏風絵として、洛中洛外図、職人尽絵、祭礼図、南蛮屏風など風俗画が多く描かれた。都市の繁栄、様々な生業、祭礼や参詣する群衆、来航した南蛮船とその船員、宣教師や修道士など、庶民を



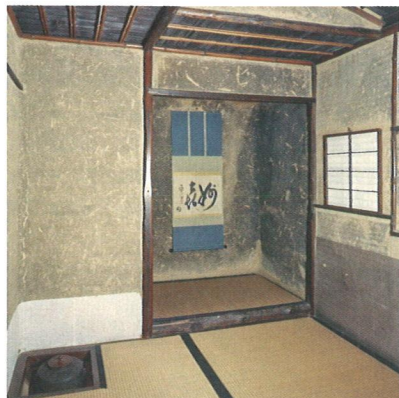
都久夫須麻神社本殿 琵琶湖の竹生島にある。入母屋造・檜皮葺の建物で、伏見城内の殿舎を移建したとも伝える。屋根の唐破風、豪華な透彫をほどこした扉など、桃山時代の華やかな趣をよく示す。(滋賀県)

③ 秀吉は晩年に伏見城を居城としたが、その地が江戸時代に桃山と呼ばれた。

建物の内部などを飾る

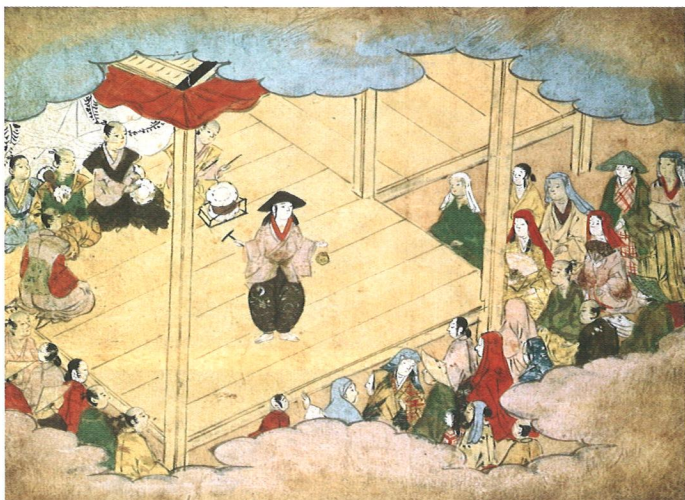
④ 欄間彫刻も盛んになり、蒔絵をほどこした家具調度品や建物の飾り金具などにも装飾性の強い作品がつくられた。

阿国歌舞伎 中央の紐をたたいているのが阿国。(『国歌舞伎絵詞』、部分、京都大学附属図書館蔵)



妙喜庵茶室(待庵) 臨済宗の禅院妙喜庵の茶室で、秀吉の命を受けた利休の趣向によるという。2畳敷の狭い空間の構成的工夫に、彼の茶の精神が読みとれる。(京都府)

① 肩衣と袴をあわせて(上下)といった。



中心とする人々の生活そのものをいきいきと描いている。

衣服は身分を問わず小袖が一般的になり、男性はその上に袴をはき、正装の際には肩衣を着けた^①。また男女ともに結髪するようになった。食事は朝夕2回が3回になり、公家や武士は米を常食としたが、庶民はおもに雑穀を食べた。住居は、村では茅葺屋根の平屋がふつうだったが、京都などの都市では瓦屋根の2階建ても多くなった。

芸能の新展開

② 秀吉が1587(天正15)年に開催した北野大茶湯が有名。黄金の茶室を組み立て、大勢の町人も参加させた。

③ 「かぶき」とは「傾く」という語から生まれた言葉で、異様な姿で歩きまわる者を、当時「かぶき者」といった。

④ 伊東マンショ・千々石ミゲル・中浦ジュリアン・原マルチノの4人。ポルトガル・スペイン・イタリアで歓迎され、1590(天正18)年に帰国し翌年には秀吉にも謁見した。

京都や堺などの富裕な町衆や武将たちのあいだでは、茶の湯が流行した。堺の商人である今井宗久・津田宗及・千利休は信長や秀吉に重用され、秀吉らが主催した豪華な茶会でも中心的な役割を担った^②。千利休は一方で、簡素な侘茶を追求し、茶道を確立させた。

能も秀吉が愛好して保護し、狂言とともに武家の儀式で用いられる公式の芸能(式楽)となった。一方で、庶民の娯楽としては、都市で風流踊りが盛んだったが、17世紀初めに京都では出雲お国(阿国)が、異様な風体で目立とうとする「かぶき者」^③の姿で踊り、評判となった(阿国歌舞伎、かぶき踊り)。その後、それを模倣した女芸人や遊女が演じる女歌舞伎が流行した。また、堺の高三隆達がうたいはじめた隆達節も流行し、中世以来の語り物である浄瑠璃に琉球から伝来した三味線を組み合わせた人形浄瑠璃も生まれた。

国際的な文化の交流

宣教師ら「南蛮人」によって天文学や医学・地理学、油絵や銅版画、パン・カステ



『南蛮屏風』 六曲一雙。南蛮人との交流を描く『南蛮屏風』は、「南蛮人渡来図」とも呼ばれ、約100点が知られている。この屏風では、南蛮船の船長や乗組員が貿易品をもたらし、彼らを宣教師たちが出迎えている。右下には舶来品を扱う唐物屋が、右上には南蛮寺が描かれている。(右隻、縦154.5cm、横363.2cm、神戸市立博物館蔵、兵庫県)



詳しく
みてみよう！

南蛮屏風

西洋画の影響を受けて、日本人が描いた。

ラ・カルタ・タバコなどの文物がもたらされた(南蛮文化)。イエズス

会のヴァリニャーノは司祭や修道士の養成をはかり、初等教育学校(セ
Valignano 1539 ~ 1606
 ミナリオ)を安土と肥前有馬に、高等教育学校(コレジオ)を豊後府内に
あづち ひぜんあり ま
 設けた。1582(天正10)年には、やはり布教上の効果を期待して、

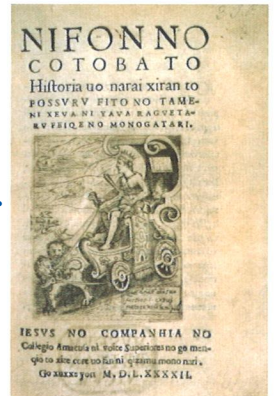
キリシタン大名大村純忠・有馬晴信らにゆかりのある少年らをヨーロ
おおむらすみただ はるのぶ
1539 ~ 1606 1567 ~ 1612
 ョッパへ送り、ローマ教皇に謁見させた(天正遣欧使節⁴)。さらに金

属製の活字による活版印刷術を導入した。以後、キリスト教の教義書
 や文学が翻訳され、日本の古典や日本語辞書⁵も出版された(キリシ
 タン版)。

ヴァリニャーノの勧めでキリシタン大名の大村義鎮・
 有馬晴信・大村純忠の3人が派遣した。

また、文禄・慶長の役で西日本の諸大名が連行した朝鮮人陶工ら
ぶんろく けいちょう えき
 が陶磁器の生産を始め、窯業が栄える基盤が形成された。京都相国
とうじき
 寺の僧だった藤原惺窩は慶長の役で連行された儒者姜沆とも交流し
せい か けいちょう えき
 て儒学の理解を深めた。
1561 ~ 1619 → p.165
じゅしゃきやうこう
(カンハン) 1567 ~ 1618

「天草版」ともいう



天草版『平家物語』(大英図書館蔵)

第8章のまとめ

- 問1 ヨーロッパやアジアとの交流は、日本の中世から近世への変化にどのような影響を与えたのだろうか。とくに大きな影響を与えたものは何だろうか。
- 問2 豊臣秀吉の全国統一の前後で、何がどのように変化したか、様々な面から考えてみよう。また、かわっていないことについてもあげてみよう。
- 問3 戦争と平和、政治と経済という観点から、近世の特徴について、中世や近代とも比較して、問いを表現してみよう。

生類憐みの令からみる 江戸時代の社会の変化

近世の日本では、戦乱の時代が終わり、幕府の支配のもとで平和が維持され、政治や社会のあり方が変化していった。5代将軍となった徳川綱吉ははじめて分家から将軍となり、こうした環境の中で新しい政治をおこなってゆく。なかでも代表的な政策として知られているのが、生類憐みの令(→p.178)といわれる一連の法令であった。この法令をめぐる歴史資料から、江戸時代にはどのような特徴があったといえるか、考察してみよう。

実際の歴史資料を読んで、考えてみよう

実際に出された、生類憐みの令といわれる法令は、どのような内容だったのだろうか。

史料1はその1つであり、町触と呼ばれる法令の一種で、江戸のすべての町へ1687(貞享4)年1月に出された。江戸幕府の法令は、このように対象となる地域や集団ごとに出されたが、生類憐みの令のような場合は、全国的に同様な法令が発せられた。

この歴史資料を読んで、江戸幕府が何を命じているのか、読み取ってみよう。つぎに、そこからこの時代の江戸ではどのような事態がおこっていたのかを、考えてみよう。



高札 近世の重要な法令はこのように人の集まる場所に掲示された。生類憐みの令も一部が高札に掲げられた。図は江戸日本橋の高札場。

(『江戸図解風』、部分、国立歴史民俗博物館蔵)

史料1

惣じて人宿又は牛馬宿^①其外にも、生類煩^②い^③重く候え
ば、いまだ死せざる内に捨て候様ニ粗^④相聞こえ候。右の
外、不屈^⑤の族これ有るにおいては、急度仰付らるべく
候。密々にてか様な儀これ有候ハバ、訴人に出づべし。
同類たりといふとも、其科^⑥をゆるし、御ほうび下さるべ
く候。以上

正月
(『正宝事録』貞享四(一六八七)年
① 人や牛馬を滞在させる宿 ② 病氣 ③ 役所に告発すること ④ 罪。

生類憐みの令(月は陰暦による)

1685(貞享2)年

- ・7 將軍御成の道筋に犬・猫が出ていても構わない
- ・11 江戸城中で料理に鳥類・貝類・海老などを使うことを禁じる

1687(貞享4)年

- ・1 病人や病気の牛馬を捨てることを禁止
- ・2 江戸町中に飼犬の登録制を命じる
- ・7 車による犬の殺傷を戒める

1690(元禄3)年

- ・10 捨て子を禁じ、新生児の届け出を命じる

1696(元禄9)年

- ・8 妊娠・流産の届け出を命じる

ほかの法令も読み、あわせて考えてみよう

史料2も、同じく江戸の町触で、生類憐みの令の1つである。同じようにこれを読んで、江戸幕府の命令の内容や、江戸でおこっていた事態について考えてみよう。

また、史料1のような法令とは、どのような共通点があるといえるだろうか。史料1と2を合わせてみると、どんなことがいえるだろうか。

ほかにも、生類憐みの令といわれる法令では、野良犬に餌を与えることや、動物や虫を殺してはいけないこと、などが繰り返し命じられている。

あわせて考えてみると、江戸幕府はどのような社会を、どのようにかえようとしていたといえるだろうか。たとえば、病人や子ども、動物を等しく大切にすることを目指した、ということがいえるだろうか。ほかには、どのようなことがいえるだろうか。



史料2

いよいよ捨子仕の間敷く候。養育成りがたきわけこれ有り候ハバ、其町の名主・五人組へ其の品①申し出づべく候。向後②町中にて子供出生致し候ハバ、早速名主方帳面ニ付け置き申すべく候。

①事情 ②今後。

(『正宝事録』元禄三(一六九〇)年十月)

捨て子 「月行事」の提灯をもった町役人が、捨て子を見つけた場面。父母らしき2人が、柵の向こうからのぞいている。

(『鳥居清経』金 父母 1777年刊、国立国会図書館蔵)

当時の社会の雰囲気、文芸作品から考えてみよう

史料1・2が出された時代の社会は、どのような雰囲気だったのだろうか。

史料3は、井原西鶴(→p.188)が、一般の読者に向けて書いた、同じ時代を舞台にした小説の一部で、京都で生まれた主人公の生い立ちを説明している部分である。

これを読み、史料1・2から考えたことと関係させて、この時代の社会の雰囲気についてどんなことがわかるか、考えてみよう。

こうした文芸作品と、史料1・2のような幕府が出した法令とでは、だれが、だれに向けて、何のために書いているのか、といった点はどう異なっているだろうか。

つぎにそこから考えると、史料1・2のような歴史資料と、史料3のような歴史資料では、読み取れることはどのように違ってくるだろうか。考えてみよう。

史料3

父は一代男①とて、子の初声②もきかず、取り揚げば③の手よりすぐに、襦袢④にまきながら、六角堂の門前に捨てられ、慶安四年のうき秋、よるの霜の風にいたみ、かぎりのしるる命を、犬も不思議に喰残してありける。

①西鶴「好色一代男」の主人公世之助のこと。②取上婆。助産婦のこと。③産着。

(貞享元(一六八四年)刊『諸艶大鑑』)

そのほかの政策との関連を考えてみよう

将軍綱吉が打ち出した特徴的な政策は、生類憐みの令^{しやうるいあわれ}だけではなく。では、ほかの政策と生類憐みの令は、関係していなかったのだろうか。

史料4は、やはり綱吉の時代に出された服忌令^{ふっきき}(→p.178)の一部である。

これを読んで、生類憐みの令と共通点がないか、あわせて考えると、どのようなことがいえるだろうか。

同じように、武家諸法度の改定(→p.177)や、学問や宗教をめぐる政治(→p.178)とは、何か関係がないだろうか。ほかの政策や、社会・経済・文化の動向とは、関係がないだろうか。いろいろと考えてみよう。

時代の変化から考えてみよう

以上で考えたような時代の雰囲気は、前の時代とどう関係しているだろうか。

将軍綱吉の時代は、関ヶ原の戦い(→p.154)、大坂の陣^{しまたばら}(→p.155)、島原の乱(→p.159)といった大きな戦いから何年たっているだろうか。これらの戦いに参加した人々は、この頃何歳くらいになっていただろうか。

大きな戦いがなくなったこと、そこから時間が経過したことは、人々の考え方や行動のしかたに、どのような影響を与えていただろうか。考えてみよう。

国際的な環境から考えてみよう

こうした時代の変化は、日本列島の中だけで決まるものだっただろうか。

豊臣秀吉による日本の統一(→p.143)のあとも、大きな戦いはすぐには終わらなかったことを振り返ってみよう。大陸でも、様々な戦いが続いていた。

こうした戦いがしだいに終わっていったことは、日本列島にどのような影響を与えただろうか。考えてみよう。

史料 4 ① 穢之事^{けがれ}

一 産穢^{さんえ} 父七日 母三十五日
遠国より告げ来る内、七日過ぎ候ハバ、穢れに及ばず、

一 血荒^{ちち} 父七日 母十日

一 流産^{りゅうさん} 父七日 母十日

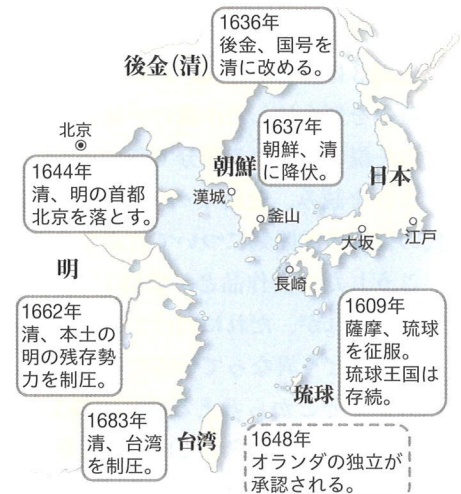
一 死穢^{しえ} 一日 (御触書寛保集成)

① 一六八六(貞享三)年に出された服忌令改定の抜粋。
② 出産。
③ 妊娠初期の流産。
④ 人の死に接すること。

	忌	服
父母	50日	13月
養父母	30日	150日
継父母	10日	30日
夫	30日	13月
妻	20日	90日
嫡子	20日	90日
末子	10日	30日
祖父母(母方)	30日(20日)	150日(90日)
兄弟姉妹	20日	90日

服忌令の服喪・忌引の期間の例^(1686年)

近親者が死亡した場合に、自宅に謹慎し(忌)、喪に服する(服)期間が細かく定められた。繰り返し追加がなされ、広く社会に浸透していった。



17世紀の東アジアの動き



19世紀初めに描かれた江戸の町の風景 将軍綱吉の時代から約100年後に描かれた図。様々な職業の人々でにぎわう江戸の町の姿をいきいきと描き出している。(『きだいしやうらん 熙代 勝覧』、部分、ベルリン国立アジア美術館蔵)

江戸時代の特徴を考えてみよう

将軍綱吉の時代に生類憐みの令や服忌令などの政策が打ち出されたことは、その後の江戸時代に大きな影響を与えた。

戦国時代までと比べて、江戸時代はどのような社会にか変わったといえるだろうか。その背景は何だったと考えられるだろうか。ここまで考察してきたことをふまえて、仮説を立ててみよう。

歴史資料が残っていることの意味を考えてみよう

歴史資料は、つくられた時代からのち、絶えずだれかが保管していたために、現在のわれわれがみることができる。史料1～4は、それぞれどのような人々が、何のために保管してきたのだろうか。

これらの史料のどれかが、もしも現在残っていなかったとすると、この時代についてどんなことがわからなくなるだろうか。

また、現在では、こうした歴史資料はどのように保存・保全されているだろうか。調べてみよう。